

令和5年度関東高等学校男子バスケットボール大会
兼 第77回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会
＜Aブロック 1回戦＞

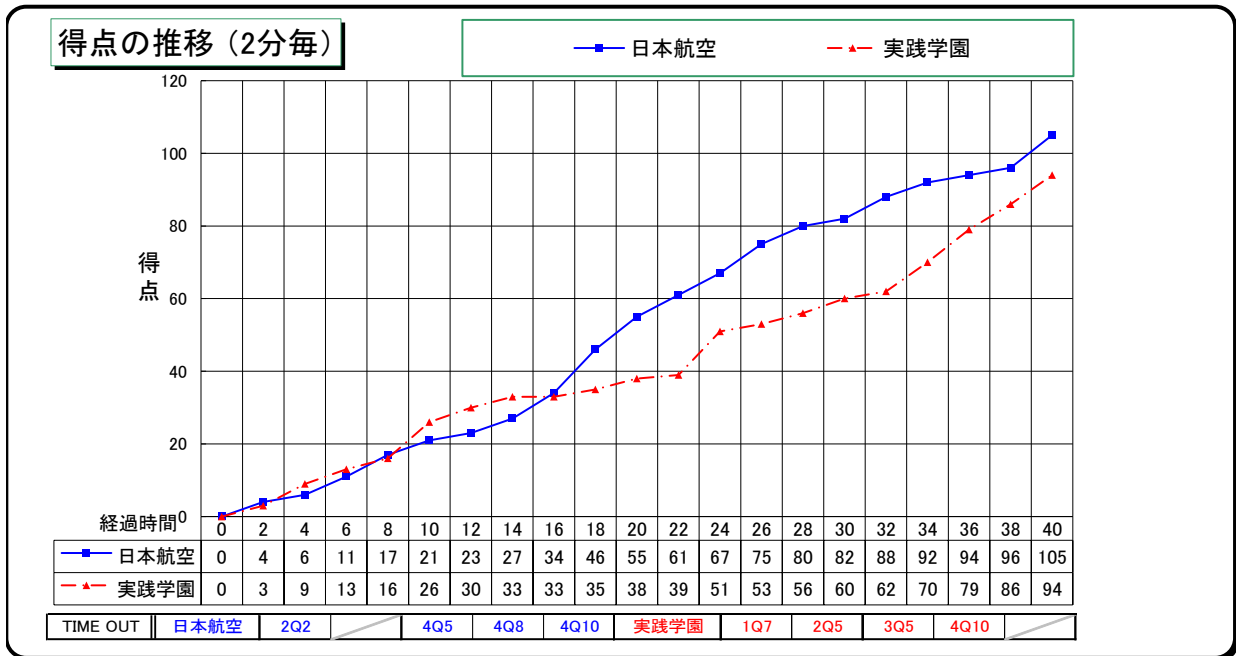
令和5年6月3日(土)	アダストリアみとアリーナ	大会1日目	Bコート	第3試合 12:00～
<チームA> 日本航空 山梨		105	94	<チームB> 実践学園 東京

主審: 増淵 泰久 (栃木) 第1副審: 佐藤 賢 (茨城) 第2副審: 三本木 篤史 (茨城)

S	No	選手名	得点	3P		2P		FT		F	リバウンド		アシスト
				成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	
	0	西田 壮良											
○	1	藤野 仁喜	4		1	2	7			4		1	1
◎	7	青木 王哉	10			5	9			2		2	3
◎	9	福岡 恭輔	4			2	3			3		3	1
○	10	山崎 柁威			1								1
◎	23	オルワベルミ・ジェラマア	40			19	32	2	6	2	6	14	3
◎	30	大道 一步	29	2	3	11	17	1	1	4	5	10	8
○	33	大矢 颯太								1			
	34	久保田 楓羽											
◎	58	中西 哲太	14	3	6	2	3	1	1	4		1	1
	66	酒井 基充											
	70	林 天創											
○	77	高橋 蓮夢	2			1	1						
○	87	須崎 優斗	2			1	3			2	1		2
○	99	三村 デール アンソニー								1			
		コーチ 山本 裕											
合計			105	5	11	43	75	4	8	23	12	31	20

S	No	選手名	得点	3P		2P		FT		F	リバウンド		アシスト
				成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	
	4	雪竹 晴太											
○	6	北川 堅資	8	2	2		2	2	2		1	1	
○	7	中川 結斗	2		2	1	1				1		
	8	古村 直樹											
◎	14	渡邊 颯太	18	3	9	4	4	1	2		4	6	3
○	15	江川 晴	6	1	6	1	6	1	4	4	2	8	4
	22	浅岡 明日蘭											
	32	佐藤 琉琥											
◎	37	南澤 空	31	5	18	5	8	6	8	1		4	6
◎	42	土山 瑛人	3		1	1	6	1	2	1		1	1
○	45	山本 真司			1		2					1	
○	49	平岡 拓篤	5		1	1	3	3	3		2		
◎	79	高橋 徳乃心	7			2	3	3	8	2	2	3	
◎	81	山下 巧稀	14			5	15	4	5	4	2	3	
	82	武井 春磨											
		コーチ 佐藤 正成											
合計			94	11	40	20	50	21	34	12	14	27	14

◎:スターター / ○:出場 / 3P:3点シュート / 2P:2点シュート / FT:フリースロー / F:パーソナルファウル



戦評 記入者: 三村 真人

令和5年度関東高校男子バスケットボール大会Bブロック1回戦、日本航空高校(山梨県、以下日本航空)vs実践学園高校(東京都、以下 実践)。

第1Q、ディフェンスは両チーム共にハーフコートマンツーマン。実践は#37南澤の3Pで先制するも、日本航空は#30大道がゴール下のシュートで取り返す。実践は#30大道を中心にオフェンスを展開していく。お互いゴール下を堅く守っており拮抗していたが、#30大道のドライブインと#23オルワベルミの長身を生かしたダンクシュートで徐々に中から攻めることに成功していく。残り3分、実践はタイムアウトをとり、反撃する。#14渡邊が3Pを決めると#79高橋、#15江川も続いて3P決めていく。実践は外中心の攻めが成功し、21-26で実践リードとなり第1Q終了。

第2Q、流れを掴んだ実践は開始してすぐにスティールから速攻につなげる。2連続で速攻を決め、残り8分で日本航空がタイムアウトを取る。その後日本航空はディフェンスを1-3-1ゾーンディフェンスに変更。それにより実践はゴール下までパスが通らない。さらに日本航空は速いバス回しから果敢に外のシュートを狙う。#58中西が3Pを決め、流れが日本航空のペースになった残り5分で実践はタイムアウトを要求。その後も日本航空はミドルシュートと3Pを連続して決める。実践はそれらを止めようとディフェンスのエリアを広くするが、#23オルワベルミがゴール下で構えており、ダンクシュートを決めていく。中と外の両方で得点し、流れが日本航空のまま55-38で第2Q終了。

第3Q、日本航空はゾーンディフェンスを継続。#87須崎がドライブインで決めると、#23オルワベルミと#30大道が続いてドライブインからバスケットカウントを獲得する。差を縮めたい実践は速攻や#42土山のゴール下で攻めようとするも日本航空速い戻りと堅いゴール下は中々崩せない。残り5分で実践がタイムアウトを取り、速攻から3Pを果敢に狙う攻めに変更。決めることは成功するが、日本航空のオフェンスを止めることが出来ない。日本航空はドライブインからの合わせで確実に点を決めていく。両者ともに激しいオフェンスを維持したまま82-60で第3Q終了。

第4Q、流れを掴みたい実践はディフェンスをオールコートマンツーマンに変更し、スティールを狙う。日本航空はパスを確実につないで突破し、点につなげていく。しかし、疲労からか残り5分から実践のスティールが増え、速攻につなげることに成功する。良いリズムから#37南澤も3Pを決め、徐々に点差が縮まる。また、日本航空は#1藤野が4つの個人ファウル、残り3分半でチームファウルも5つとなり、実践学園はフリースローを多く得ることに成功し、確実に決めていく。スティールが多くなり、日本航空の点数が止まった残り2分、96-86で日本航空がタイムアウトを取る。実践学園は時間が少ないため、激しくディフェンスするも、すぐに日本航空#30大道が3Pとミドルシュートを決める。残り1分で実践がタイムアウトをとり、逆転を狙おうとするも、互いに点を取り合い、終盤は点差が縮まることなく、105-94で日本航空が勝利した。